



令和7年
7月

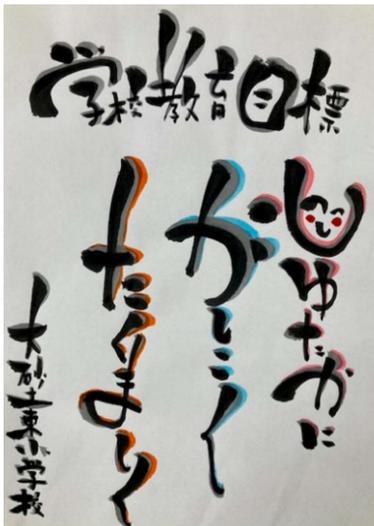
学校だより

心ゆたかに かしこく たくましく
～ 自律・感謝～

さいたま市立大砂土東小学校
Tel 048(684)8003
令和7年6月30日発行

失敗をしよう

校長 石川 顕一



▲大砂土東小「学校教育目標」

梅雨明けを待っているかのようにアサガオがすくすくとつるを伸ばしています。その様子は、大きく成長しようとチャンスをうかがっている大砂土東小学校の子どもたちのようです。

職員室では、担任たちが自学級の様子について情報交換を行います。ある担任が「みんなで虫取りに行こう」と呼びかけると、「やったことがないからやりたくない」という子どもが多数いたというのです。これまで担任した子どもは好奇心旺盛で何でもチャレンジしてきただけに、その言葉は予想外だったそうです。確かにチャレンジしない子が増えてきたように思います。

では、なぜ子どもはチャレンジしなくなったのでしょうか。

一つは、子どもの成長に影響を及ぼす私たち大人がチャレンジをしなくなりました。何かを決める時やどこかに行く時は事前に調べるのが当たり前になり、よくわからないままチャレンジすることがなくなりました。失敗することが少なくなり、他者から批判されなくてすむようになりました。

次に、子どもが失敗しないようにと大人が先手を打ってしまうことがあげられます。子どもが失敗をすれば、それによって大人が恥をかいいたり、失敗に対応する手間が増えたりするからです。

こうしてみると、チャレンジしないこと、失敗しないことは、当座は都合の良いことばかりに見えますが、長い長い子育てを考えると心配な事もあります。

子どもは未完成なものですから失敗はつきものです。失敗して当然です。この失敗の経験を通して、課題解決の道筋を考え、解決に必要な力を身に付けようとしています。また、人の気持ちがわかり、寄り添うことができるようになります。人を信じ頼ることを覚えます。失敗の経験があつてこそ、人は成長できるのだと私は思っています。失敗経験は成長の糧となるのです。

教職員も含めた私たち大人も、大いに失敗し、その失敗をしっかりと受け止め、そして、失敗から学んだことを堂々と子どもたちに話せるようにしたいものです。そうすれば、子どもは「なんだ、先生も失敗することがあるんだ」「そうか、誰でも失敗するんだ。」を学び、チャレンジすることに前向きな気持ちがはぐくまれることでしょう。